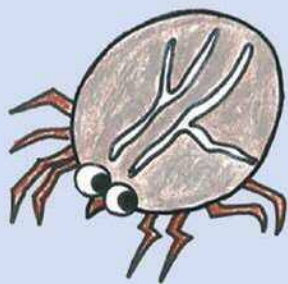
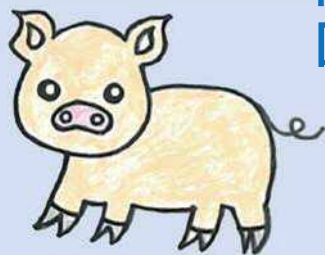
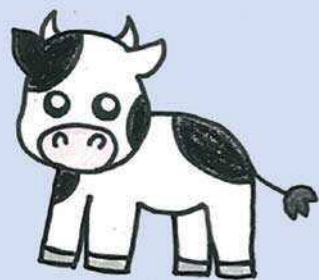
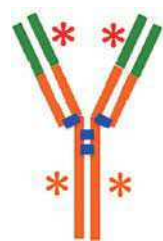


研究と臨床を積み重ね 食物アレルギーの 発症メカニズムを解明

獣肉アレルギーの関連図

獣肉アレルギーのアレルゲンはある種の抗癌剤(セツキシマブ)のアレルゲンと同一である。



マダニ

獣肉アレルギーを発症すると、交差反応のためにカレイ魚卵にもアレルギーを発症する。

石けん使用で発症した 食物アレルギーを解明

食物アレルギーとは、特定の食べ物に含まれるタンパク質などに体内の免疫機能が過剰に反応する状態。異物を排除しようとして、発疹や咳、ひどい時には意識を失うなど命に関わる症状も引き起こします。アレルギーは、口からだけでなく、気道や皮膚からも摂取されます。小麦由来の成分が入っている石けんを使ったことでアレルギーが発症した事例は、全国的な社会問題にもなりました。この事例を解明したのが、千貫講師らが所属していた森田栄伸教授の研究グループなのです。「成人の小麦アレルギーの主な原因が、ω5グリアジン(ω5G)という小麦タンパク成分

ウイルスや細菌などの病原体から、私たちの体を守ってくれる防御システム「免疫」。しかし本来無害なものに対して過剰に反応して、逆に体に有害な症状を引き起こす状態が「アレルギー」です。医学部の千貫祐子講師は、中でも食物アレルギーの研究に力を入れ、患者の治療に結びつけています。

PROFILE

医学部 医学科 皮膚科
千貫 祐子 講師

小学生の頃、弱毒ウイルスによるイボが両手の甲全面に出たことで、いじめを受けました。3歳上の姉がアトピー性皮膚炎に苦しむ姿も間近で見えており、皮膚科を選ぶきっかけになりました。皮膚は目に見えるため、時に誹謗中傷の対象となり得る不合理さは誰よりも感じていましたね。

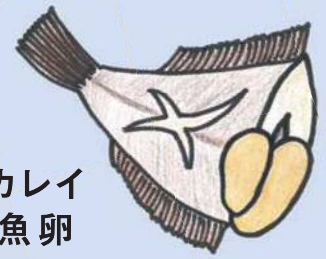




A型かO型

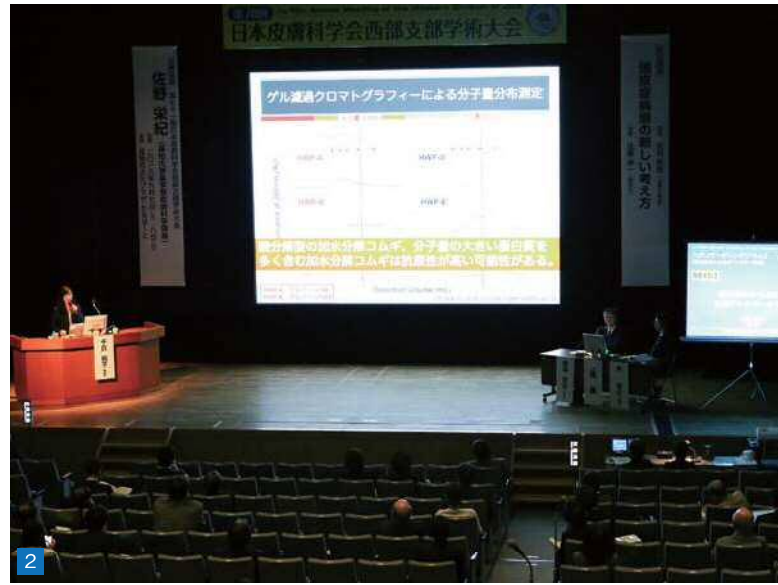


獣肉アレルギーは血液型A型またはO型が発症しやすい。獣肉アレルギーは屋外で犬を飼育している人が発症しやすい。

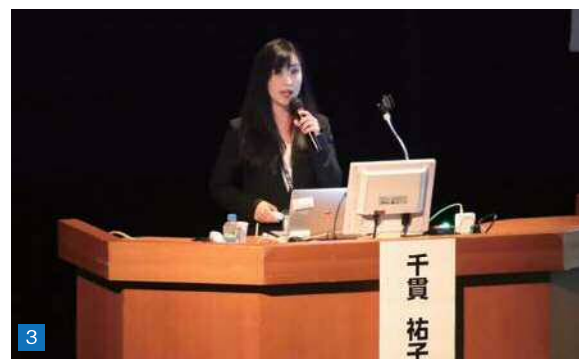


カレイ魚卵

Chinuki Y, et al. Allergy 71: 421-425, 2016
千貫祐子, 他: 日皮会誌123: 1807-14, 2013



1. 獣肉アレルギーの相関図。獣肉アレルギーの感作原因(アレルギーが成立する原因)は、気づかないうちにマダニに咬まれていることにより、獣肉アレルギーのアレルゲンはある種の抗癌剤(セツキシマブ)のアレルゲンと同一であることが分かっています。2・3.島根県で行われた学会での発表の様子。臨床医が選ぶ若手講師(講演者)おすすめランキング皮膚科部門で日本一の評価を受けている千貫講師は、全国各地で多数の講演を行っている。



患者の声に耳を傾けて アレルギー症状を改善

であることは同研究グループが既に解明していました。しかし2009年くらいから、w15Gの検査では陰性になるのに小麦を摂取するとアレルギー症状が出る患者さんが出てきました。彼女らは皆、目の腫れを訴えていました。その患者さんの一人が関係性を疑って診察室に持ってきたのが、石けんだったのです。

目が腫れた患者さんに問診すると、全員同じ石けんを使っていたことが分かり、わずかな期間で39人も人が小麦アレルギーを発症していました。w15Gとは違う小麦由来タンパク成分が原因でした。千貫講師らは、販売元に指摘、最終的には企業の自主回収に繋がりました。「全国で少なくとも2000人以上もの消費者がアレルギーになったことが分かっています。毎日の洗顔で臉の皮膚という弱い部分に浸透し、体内に侵入したのでしょうか。当初は石けんが原因だとは思いませんでした。大切なことはいつも患者さんが教えてくれます」。

マダニを介した牛肉アレルギーの解明にも尽力されています。牛肉を食べべてじんましんが出たという患者の診察を機に疫学的調査を進め、アレルギーを誘引したのは患者が飼っているペットに付いたマダニと解明。さらにマダニ由来成分に対する抗体が、「セツキシマブ」という抗がん剤のアレルギーも引き起こしていることも分かりました。「多くの食物アレルギーは摂取2時間以内で症状が出ますが、牛肉の場合10時間以上経ってじんましんが出る人も。マダニに咬まれても普通は気づきません。患者さんとの会話の中で、少しずつ分かってきたのです」。千貫講師は現在、患者にセツキシマブを投与する前に行う血液検査の保険適用を訴えています。「マダニ由来成分に対する抗体を持っている患者にこの薬を投与すれば、ショック死する人もいます。必ず検査する体制を整えるべきです」。

アレルギーの臨床、研究に力を注ぐきっかけになったのは約15年前、学会で薬剤アレルギーの研究発表を聞いたことだそうです。「患者さんのために何かを発見し、役に立ちたい、と強く思い始めました」。初心のまま、患者の声に丁寧に耳を傾け、研究や治療を推し進めておられます。